



2021年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年1月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL https://www.shochiku.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 2021年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第3四半期の連結業績（2020年3月1日～2020年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	36,723	△50.2	△3,732	—	△4,100	—	△9,827	—
2020年2月期第3四半期	73,766	10.2	3,840	32.6	3,557	51.1	2,275	58.3

(注) 包括利益 2021年2月期第3四半期 △9,445百万円 (—%) 2020年2月期第3四半期 1,590百万円 (125.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	△715.50	—
2020年2月期第3四半期	165.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第3四半期	193,543	81,422	41.8	5,896.66
2020年2月期	195,336	91,292	46.5	6,610.12

(参考) 自己資本 2021年2月期第3四半期 80,992百万円 2020年2月期 90,797百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2021年2月期	—	0.00	—	—	—
2021年2月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有
 配当予想の修正については、本日（2021年1月14日）公表いたしました「配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年2月期の連結業績予想（2020年3月1日～2021年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,750	△46.9	△8,630	—	△8,890	—	△14,290	—	△1,040.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 連結業績予想の修正については、本日（2021年1月14日）公表いたしました「2021年2月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年2月期3Q	13,937,857株	2020年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	2021年2月期3Q	202,490株	2020年2月期	201,782株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年2月期3Q	13,735,735株	2020年2月期3Q	13,736,851株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により経済活動の制約が強まり、景気が急速に悪化しました。個人消費については、緊急事態宣言の解除後、持ち直しの動きがみられたものの、感染が再拡大する傾向にあるなど、景気の先行きは極めて不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の効率化を図るとともに、本格的な事業再開に向けた環境整備に努めて参りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高36,723百万円(前年同期比50.2%減)、営業損失3,732百万円(前年同期は営業利益3,840百万円)、経常損失4,100百万円(前年同期は経常利益3,557百万円)となり、特別損失5,292百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は9,827百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益2,275百万円)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。なお、当社の組織変更に伴い、当企業グループにおける経営管理体制を再検討した結果、第1四半期連結会計期間よりセグメントの区分を変更しております。従来「その他」に区分しておりました音楽著作権の利用開発・許諾等を「映像関連事業」に、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売等を「演劇事業」にそれぞれ変更しております。このため、前年同期との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

(映像関連事業)

配給は、3月公開の「Fukushima 50」は、映画館の休館の影響を受ける厳しい状況での公開となりましたが、営業再開後も上映する映画館が多く、長期間に渡る上映となりました。8月公開の「事故物件 怖い間取り」は若年層を中心に幅広い層に支持され大ヒットとなりました。9月公開の京都アニメーションの最新作「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」もロングラン上映となる大ヒットを記録しました。

興行は、(株)松竹マルチプレックスシアターズにおいて、6月以降、感染予防対策のガイドラインに従い、席数を制限し、場内の換気、サーモグラフィーによるお客様の体温確認、アルコール消毒液の設置等、万全な感染防止対策を行った上で、営業を再開いたしました。7月以降は、徐々にではありますがお客様が映画館に戻りつつあり、10月には「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の大ヒットにより高稼働いたしました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売は、堅調に推移いたしました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング(株)において、競合となるインターネット動画配信サービスが、コロナ禍による巣ごもり需要のため勢いを増しており、多チャンネル放送市場はますます厳しい状況を迎えておりますが、特色のある番組編成を強化することで、収益確保に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は22,640百万円(前年同期比46.1%減)、セグメント損失は2,145百万円(前年同期はセグメント利益2,033百万円)となりました。

(演劇事業)

松竹直営劇場では、引き続き50パーセント以下での客席使用率を維持し、お客様の安全、安心に配慮した興行を行って参りました。

歌舞伎座は、3月から7月まで公演中止となりましたが、「三月大歌舞伎」を無観客で映像収録し、動画共有サイトで無料配信をし、好評を博しました。5月から7月に予定していた「十三代目市川團十郎白猿襲名披露興行」は延期となりました。「八月花形歌舞伎」から感染予防対策のガイドラインに従い、万全の体制のもと、初の四部制として、公演を再開いたしました。「九月大歌舞伎」「十月大歌舞伎」及び11月の「吉例顔見世大歌舞伎」につきましても引き続き四部制公演、各部毎の座席消毒等の感染予防対策を徹底して千穰楽まで感染者を出すことなく、興行を打上げることが出来ました。

新橋演舞場は、10月に7ヶ月ぶりにお客様をお迎えしました。公演中止となりました「滝沢歌舞伎 ZERO 2020」を映画化した「滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie 特別上映」及び「虎者 NINJAPAN 2020」は即日完売となる好成績を上げました。11月には大竹しのぶ主演の「女の一生」が上演され、無事に全ての公演を行えることが出来ました。

大阪松竹座は、8月に、関ジャニ∞、ジャニーズWEST、関西ジャニーズJr.による無観客でのライブ生配信を行い、大きな反響を呼びました。10月は「紅ゆずる トークショー in 大阪松竹座」「GOEMON抄」、11月は「OSKだよ全員集合! OSK日本歌劇団Memorial Show & Premium Talk」をそれぞれ短期上演し好評でした。

南座は、3月にスーパー歌舞伎II「新版オグリ」を無観客で映像収録し、動画共有サイトで無料配信をし、好評を博しました。10月の「滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie 特別上映」は即日完売となる好成績を上げました。11月はTVアニメ「鬼滅の刃」と「歌舞伎」が初めてコラボレーションしたイベント「鬼滅の刃」×「京都南座 歌舞伎ノ館」が大きな話題となりました。

受託製作は、10月に名古屋御園座で「錦秋御園座歌舞伎」、11月に福岡博多座で「市川海老蔵特別公演」を上演し、それぞれ好評を博しました。

シネマ歌舞伎は、緊急事態宣言解除後の映画館の再開に伴い、月イチ歌舞伎2020の上映を開始し、10月に新作「三谷かぶき 月光露針路日本 風雲児たち」を公開いたしました。

ME Tライブビューイングは8月から9月にかけて夏のアンコール上映を4都市で開催しました。2020-21シーズンは、新型コロナウイルス感染拡大の影響にてニューヨークでの全公演が中止となり、ME Tライブビューイングの上映も中止となりました。

インターネットを利用した映像配信では、「凶夢歌舞伎」が話題となったほか、「歌舞伎夜話」「紀尾井町夜話」がシリーズ化され好評を博しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,408百万円（前年同期比79.4%減）、セグメント損失は2,717百万円（前年同期はセグメント利益365百万円）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）、東劇ビル、新宿松竹会館（新宿ピカデリー）、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビル、大船ショッピングセンター、新木場倉庫などの満室が続き、全体でも高い稼働率で安定収益に貢献しました。4月には浅草六区松竹ビルが竣工し、5月より賃貸を開始しました。また、各テナントとの賃料交渉にも誠実に対応し、安定的に利益を確保しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,870百万円（前年同期比1.9%増）、セグメント利益は4,083百万円（同7.7%増）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、劇場プログラム及びキャラクター商品は映画館の営業再開以降に公開された「弱虫ペダル」「事故物件 怖い間取り」「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」「TENET テネット」等で、キャラクターや出演者へのコアなファンにも支えられ収益に貢献しました。

イベント事業は、イベント自体のキャンセルや延期が続き、厳しい状況となりました。

小売、飲食店舗事業においては、休業もしくは感染症対策下での運営が続き厳しい状況となりましたが、「松竹歌舞伎屋本舗」事業では実店舗での集客が厳しい中、通信販売等での売上を伸ばすことが出来ました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は804百万円（前年同期比51.7%減）、セグメント損失は701百万円（前年同期はセグメント損失0百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,792百万円減少し、193,543百万円となりました。これは主に現金及び預金が減少したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ8,077百万円増加し、112,121百万円となりました。これは主に長期借入金の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ9,869百万円減少し、81,422百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、当社が2020年10月15日に公表した2021年2月期の連結業績予想を変更しております。詳細は本日公表の「2021年2月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,544	18,816
受取手形及び売掛金	7,719	7,128
商品及び製品	1,833	1,962
仕掛品	2,985	4,706
原材料及び貯蔵品	133	106
その他	2,708	4,150
貸倒引当金	△35	△30
流動資産合計	36,889	36,840
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	43,851	45,572
設備(純額)	11,753	11,833
土地	41,890	41,892
その他(純額)	9,762	5,717
有形固定資産合計	107,257	105,016
無形固定資産		
その他	2,647	2,667
無形固定資産合計	2,647	2,667
投資その他の資産		
投資有価証券	27,819	28,266
退職給付に係る資産	742	659
その他	20,174	20,254
貸倒引当金	△194	△161
投資その他の資産合計	48,541	49,019
固定資産合計	158,446	156,703
資産合計	195,336	193,543

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,055	5,786
短期借入金	4,186	4,231
1年内償還予定の社債	1,100	—
1年内返済予定の長期借入金	11,925	9,121
未払法人税等	993	743
賞与引当金	530	182
その他	9,214	9,176
流動負債合計	35,008	29,240
固定負債		
長期借入金	48,923	62,896
役員退職慰労引当金	1,014	1,014
退職給付に係る負債	1,476	1,531
資産除去債務	1,407	1,396
その他	16,212	16,042
固定負債合計	69,035	82,880
負債合計	104,043	112,121
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	22,143	11,901
自己株式	△1,456	△1,467
株主資本合計	83,841	73,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,723	7,275
為替換算調整勘定	△36	△82
退職給付に係る調整累計額	268	210
その他の包括利益累計額合計	6,955	7,403
非支配株主持分	495	429
純資産合計	91,292	81,422
負債純資産合計	195,336	193,543

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
売上高	73,766	36,723
売上原価	42,768	23,116
売上総利益	30,998	13,607
販売費及び一般管理費	27,157	17,339
営業利益又は営業損失(△)	3,840	△3,732
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	284	299
雇用調整助成金	—	140
その他	154	192
営業外収益合計	445	636
営業外費用		
支払利息	453	463
借入手数料	138	120
持分法による投資損失	43	199
その他	92	220
営業外費用合計	728	1,004
経常利益又は経常損失(△)	3,557	△4,100
特別損失		
固定資産除却損	106	182
投資有価証券評価損	—	291
公演中止損失	—	※1 3,790
臨時休業等による損失	—	※2 1,027
特別損失合計	106	5,292
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	3,451	△9,392
法人税、住民税及び事業税	1,284	196
法人税等調整額	△118	304
法人税等合計	1,166	501
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,284	△9,893
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9	△65
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,275	△9,827

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,284	△9,893
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△613	553
為替換算調整勘定	△27	△46
退職給付に係る調整額	△53	△57
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△0
その他の包括利益合計	△694	447
四半期包括利益	1,590	△9,445
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,580	△9,380
非支配株主に係る四半期包括利益	9	△65

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定に重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1. 公演中止損失

前第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当社の直営劇場をはじめとする演劇公演を3月以降、中止または延期いたしました。このため当該公演にかかる製作費・人件費・地代家賃等を公演中止損失として特別損失に計上しております。

※2. 臨時休業等による損失

前第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当企業グループが運営する映画館をはじめとする営業施設において営業時間の短縮及び休業を実施いたしました。このため臨時休業中に発生した人件費・地代家賃・減価償却費等を臨時休業等による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	42,018	21,379	8,703	1,665	73,766	—	73,766
セグメント間の内部売上高又は振替高	90	109	1,653	370	2,223	△2,223	—
計	42,108	21,489	10,356	2,036	75,990	△2,223	73,766
セグメント利益又は損失(△)	2,033	365	3,792	△0	6,190	△2,349	3,840

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,349百万円には、セグメント間取引消去26百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,375百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	22,640	4,408	8,870	804	36,723	—	36,723
セグメント間の内部売上高又は振替高	39	111	1,524	128	1,803	△1,803	—
計	22,679	4,520	10,394	932	38,527	△1,803	36,723
セグメント利益又は損失(△)	△2,145	△2,717	4,083	△701	△1,481	△2,251	△3,732

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、イベントの企画、新規事業開発等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,251百万円には、セグメント間取引消去△162百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,088百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の組織変更に伴い、当企業グループにおける経営管理体制を再検討した結果、第1四半期連結会計期間よりセグメントの区分を変更しております。従来「その他」に区分しておりました音楽著作権の利用開発・許諾等を「映像関連事業」に、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売等を「演劇事業」にそれぞれ変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。